

みだだいひ せいがん 弥陀大悲の誓願を

■ 楽曲データ

歌詞：親鸞聖人御和讃

楽曲：井上一朗 作曲

発表：仏教音楽研究所 1993年

初演：「御堂演奏会1993」 本願寺阿弥陀堂 1993年11月22日

初出：『秋の法要 御堂演奏会出演記念楽譜』 本願寺出版社 1993年

管理番号：M1356

■ 創作の経緯

1993（平成5）年の御堂演奏会で発表。作曲者は、「法要においてさえ称名のざわめきが聞かれなくなった」ことを憂い、「せめて歌の響く空間だけでもお念仏の音がうずまいてほしい」との願いから本作品を書いたと述べている。

■ 校訂報告

校訂譜：『聖歌・讃歌集』第1巻収録

底資料：『仏教讃歌女声合唱曲集 響流』 京都女子大学・京都女子大学短期大学部 1998年

比較資料：－

校訂の詳細：特記事項なし

■ 解説

◆ 作品について

歌詞は、親鸞聖人の『正像末和讃』からとられています。ご和讃の内容を受け、この仏教讃歌はお念仏を幾度もいくども繰り返す構成になっています。作曲者の井上一朗さん（兵庫教区阪神東組法専寺住職）によれば、このお念仏のモチーフが曲のなかで最初にできた部分なのだとか。

仏教讃歌を通じて、親鸞聖人のご和讃を味わい、阿弥陀さまのお徳を讃えさせていただきます。

◆ 練習のヒント

①まず、音取りを丁寧にしましょう。この曲では、ハーモニーに変化をもたせるために、たくさん臨時記号が用いられています。和音の変化を感じて歌うことがポイントになりますので、臨時記号がついているところは特に注意して練習しましょう。なかでも、5小節目の「ソ#」には気をつけましょう。

②この曲のもうひとつの特徴は、ひとつひとつのフレーズ（旋律のまとまり）が大きく作られていることです。例えば、歌いだしは9小節目までがひとまとまりです。6小節目「誓願の」の後で息つきをすると、3拍目「の」が乱暴な歌い方になり、音楽の流れが途切れてしまいがちです。でも、旋律はさらに先へ続きますので、息つぎの後でもこの部分がひとまとまりに聞こえるように、「の」の切り方や息つぎの仕方を工夫してみましょう。21・30小節目などの息つき部分も同じです。

③5小節目「大悲」の「ひ」の子音（H）をしっかり出しましょう。「だい」に聞えないように。

④曲の後半では、お念仏の歌い方がポイントです。15～23小節目で3回、24小節目以降は転調して（ト長調→変イ長調）8回、お念仏を繰り返します。すべてを同じように歌うのではなく、音楽が次第に盛りあがっていくように、歌い方を工夫しましょう。

⑤33小節目からは、アルトが主旋律です。ソプラノはアルトをよく聴いて、音量のバランスを考えながら歌いましょう。

◆楽譜・音源について

原曲はト長調ですが（『聖歌・讃歌集』第1巻収載）、1音半だけ低く移調した版（変ホ長調）が『讃歌集 二部合唱』第5巻に掲載されています。音源は、CD『讃歌集二部合唱 あの空見れば』に収録されていますので、ご参照ください。

解説執筆：山口篤子（本願寺仏教音楽・儀礼研究所 [現・浄土真宗本願寺派総合研究所仏教音楽・儀礼研究室] 研究員）

※本解説は、「メロディーの宝石箱」No. 78（仏教婦人会総連盟機関誌『めぐみ』第205号収録）を加筆・修正のうえ、転載。

Copyright: Jodo Shinshu Hongwanji-ha Research Institute. All Rights Reserved.